

平成21年度文部科学省 学生支援事業採択事業

平成22年12月7日

平成22年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」、「大学教育・学生支援推進事業」学生/就職支援推進プログラム 意見交換会

岐阜経済大学
キャリア支援部長
竹内治彦



就職活動サークルと
学生・OBメンター育成に
よるキャリア教育の充実

課題

雇用環境の悪化
学生の多様化
学年ごとの学生数不均衡
スタッフの不足

可能性

各地の就職活動
サークルの実績
運動部の定着
先輩の指導実績

基本姿勢
制約条件に向き合う
ただ人を増やしてしまうという方法ではイノベーションは生まれない
制約を引き受けたうえで、その条件下で何が
できるか考える

学生の活用

- ・もともと4年生の下級生に向けた就職活動報告講演は度々実施し、一応の評価を得てきた。
- ・学生の主体性は就職活動により高まっているという調査結果(6年程前の調査)

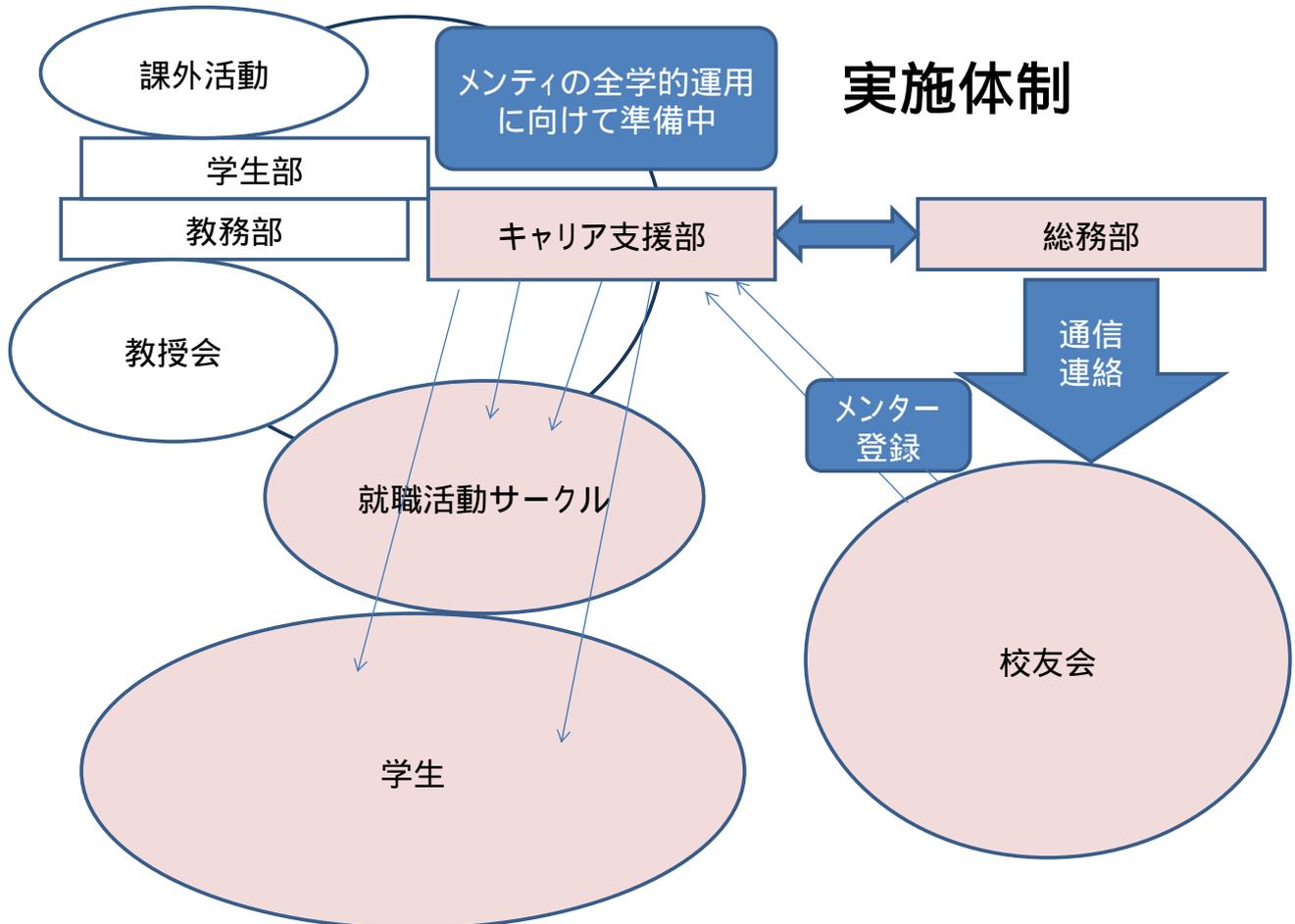
この力を保持することは卒業していく4年生にもチャンスである。

- ・さらに、OBの力の活用 愛校心の涵養

校友会活動の充実

達成目標

- ・先輩が後輩を指導する流れをつくる(4年生が後輩を、卒業生が就職活動を助ける)
- ・卒業生の離転職に関する相談にも対応できる。
- ・この活動だけでとくに数値目標は立てていないが、キャリア支援部では、学生の満足度、資格関連講座の履修状況、高いレベルでの就職の達成度、地元企業就業率、卒業生の相談件数などを常時、調べているので、それらの実績が向上することを企図している(参考:キャリア支援宣言)



就職活動サークルの活動

週1回の合同活動 キャリア形成の講義後

- ・面接練習:持ち味の発見、アピール
- ・企業の見方:業界研究、会社四季報の読み方
- ・OBによる講話:OBメンターに業界や自身の就職活動体験についての お話しをお願いします。

毎日のニュース配信

曜日担当を決め、グループで話し合い、その日のニュースから1つを選び、感想をつけてサークルメンバー全員に配信。時には教員がコメントを入れる。

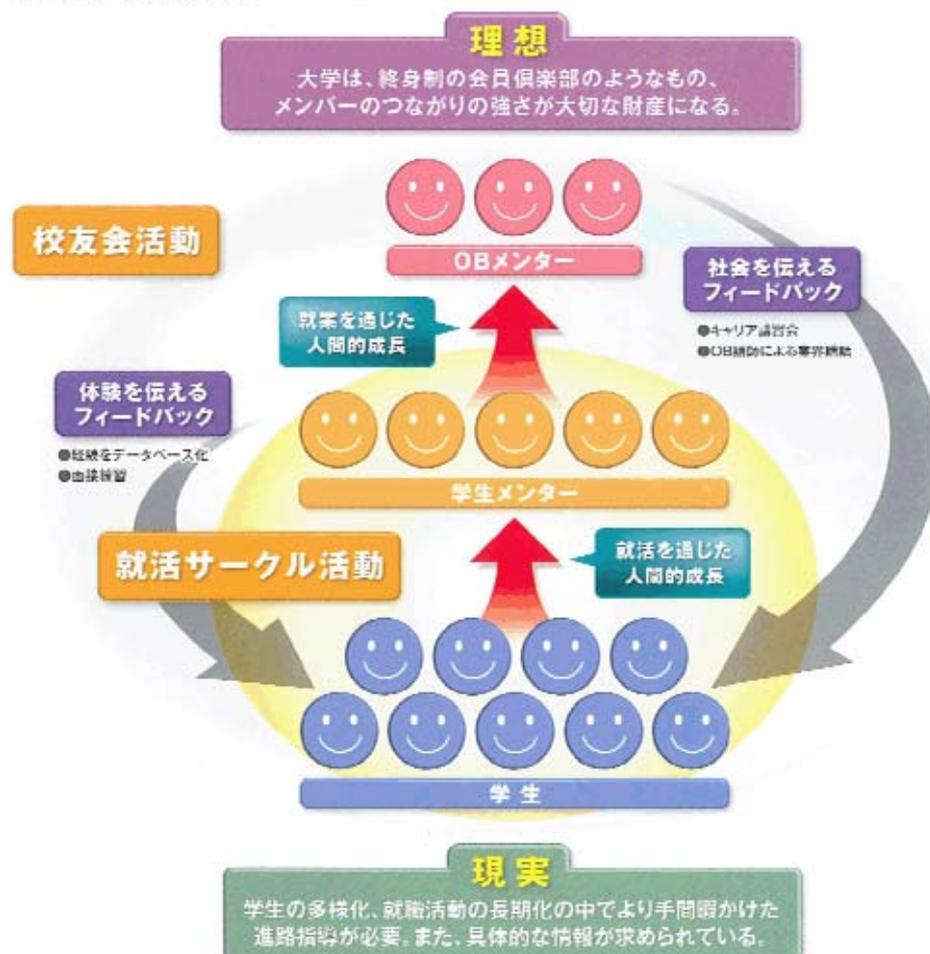
SPIや一般常識のグループ学習

キャリア形成の講義中でもやってきたこともあり、ようやく定着
就活問題集が売れる大学に・・・



今回の採択により推進するポイント

<h3>メンター育成</h3>	<h3>就職支援システム(メンティ)とDB化課題</h3>
<p>* 在学生に対して 内定を得た4年生にメンター訓練を行い、就職特別講座の補助員をメンター学生が務め、後輩を指導させる</p> <p>* OBに対して 全OBに登録依頼を郵送。 業界研究の講師などをお願いする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の就職活動記録の集積がお粗末である。試験のタイミング、様子、出題傾向、質問傾向など、もっと具体的な情報を蓄積したい。 ・学生の就職活動報告が多くはなく、キャリア支援課で電話をかけ、確認している。この作業量が多い。 <p>解決 学生が自分の記録を携帯電話に入力すると、それがキャリア支援課に飛び、活動状況がわかる。それらの記録がそのままDBになれば、新たに入力する手間は省ける。</p> <p>システム開発は(株)ホクコウ</p>





就活サークルに
ANAセールス㈱で
活躍する三浦くん
が登場、自身の就
活について語る

就職特別講座
で後輩を指導
する堀田さん
(ミズノ㈱内定
当時)



〔OBメンター登録数〕

2009年度(2010年3月)卒 40回生 卒業生数 22,592人
OBメンター登録数 2009年度 167名

茨城県	1	埼玉県	2	千葉県	1
東京都	1	神奈川県	1	富山県	2
石川県	3	福井県	5	山梨県	1
長野県	1	岐阜県	53	静岡県	10
愛知県	43	三重県	11	滋賀県	20
京都府	2	大阪府	2	兵庫県	3
岡山県	1	広島県	1	山口県	1
長崎県	2	総計	167		

〔業界研究会におけるOBメンターの業界講話〕

12月8日(水)14時40分から16時40分 2時間

講師

・(株)ニシ・スポーツ 土井 尚登

35回生 2004年度卒 28歳

・岐阜県警察本部 澤田 一志

10回生 1979年度卒 53歳

・ヒロタ(株) 加藤 光博

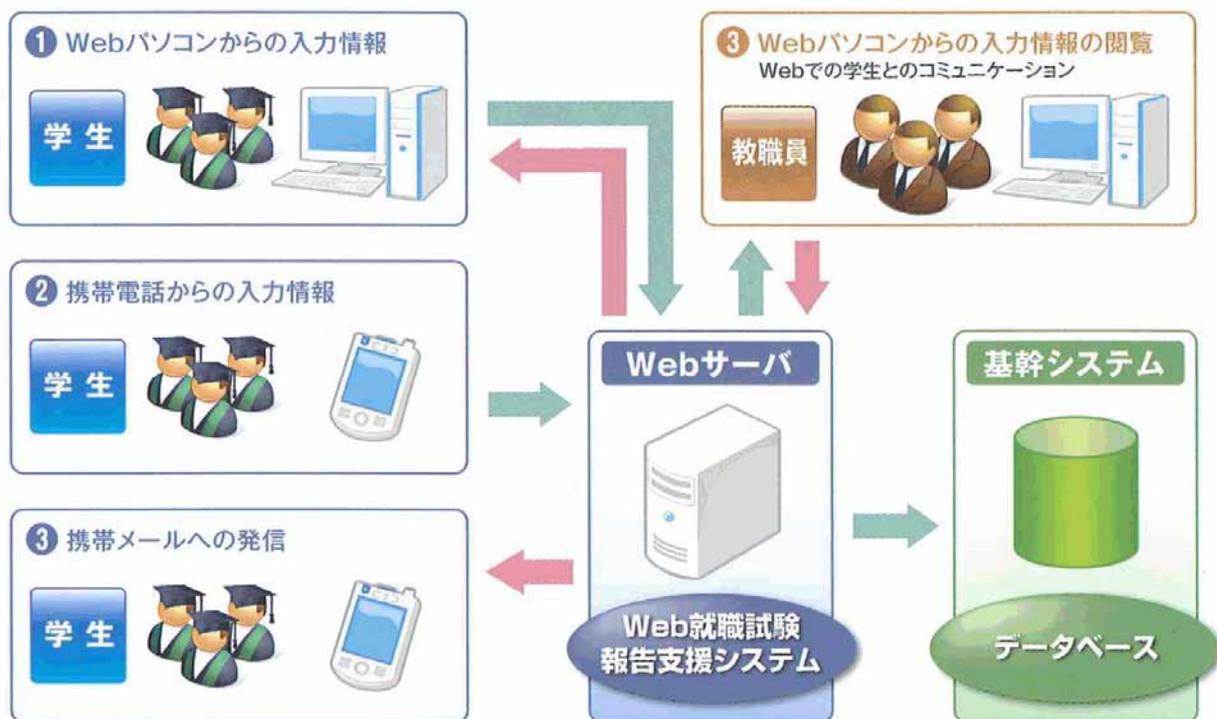
30回生 1999年度卒 33歳

・トヨタカローラ岐阜(株) 古田 靖人

32回生 2001年度卒 31歳

報告システム;メンティ(mentee)の特徴

- 基本的にはwebでの情報のやりとりを前提としたものであるが、携帯でのやり取りも可能である。
- 学生が就職活動スケジュールを入力すると、その内容をメールで返すことで、スケジュール記録を携帯内に蓄積できる(本来はカレンダーで管理するシステムにバージョンアップしたい)
- 学生の入力をキャリア支援課で確認、励ましのメールなどを送信できる
- キャリアからの一斉連絡を掲示板的な部分にあげることができる(一斉メール送信ではない)
- 通信記録を学内のDBに取り込み可能
- 他の教育上のやりとり、例えば、ゼミ教育などでも利用可能



浮かび上がってきた課題とそれらへの対処

卒業生メンターについて:地方のOBメンターの参画

本学は他府県での就職支援が弱みなので、他府県でOBメンターと学生が懇談する機会を設定する。

メンティの活用が広まらない:通信は面倒、大学に来て話すという傾向

システム上の課題よりも、頻繁に情報交換する学生の数がそれほど伸びないことから、通信実績があがっていない。

まだまだ、就職活動サークルに登録した学生だけのやりとりになってしまっている。

*もっと多くの学生の利用を習慣づけねばならない



教務、学生、キャリア支援の3部は学生支援部を構成しているので、学生支援部全体で1年生の時から利用して、学生が就職活動が始める時には、当たり前のように利用する、本学学生のアイテムにする。

・学生部:部活や奨学金の連絡用

・教務部:教職や社会福祉士などの課程履修者に対する連絡

将来的には、すべてのゼミが連絡に利用できるように持っていく。

校友会活動との連携

- ・OBへ郵便送付 メンター登録を要請
- ・OBの講話や業界研究への支援

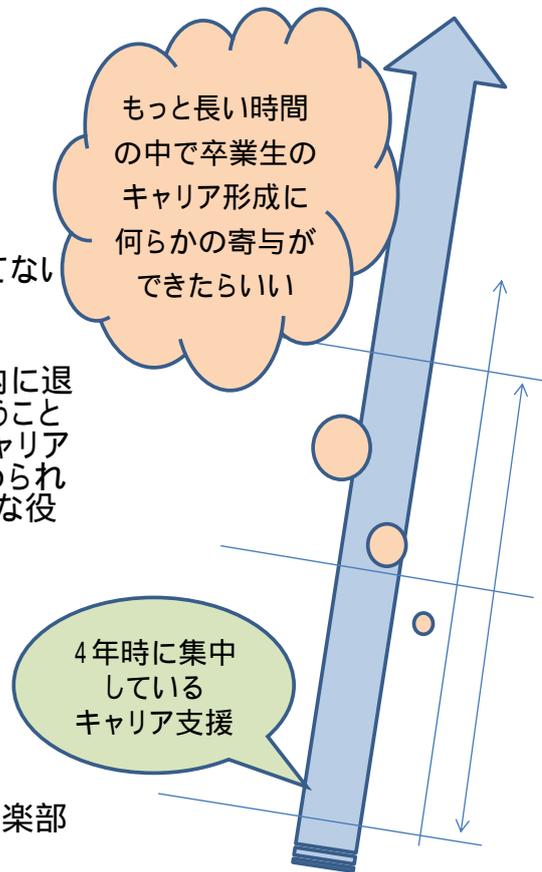
逆に、我々もOBの人生の転機に少しでも役にたてないか。

日本全国の大学生のおそらく35%以上は3年以内に退職している。大学卒業時、新卒の行き先支援ということだけではなく、もう少し長いスパンで、卒業生のキャリアに対する支援をしていくことが、今日の大学に求められているように思われる。実は中途採用市場は大きな役割を果たしており、支援されなくてはならない。

具体的目標

- ・OBが相談に来られるようにする。
- ・OBへの情報提供、スキルアップへの支援
- ・中途採用市場の情報提供
- ・労働局への申請(OBを対象とする職業紹介)

キャリア支援のイメージは大学は終身制の会員倶楽部



キャリア支援宣言 = 本学キャリア支援課の指針

- 1) 私達は、学生一人ひとりの声に耳を傾け、卒業時に全員が達成感と満足を感じる進路を発見できるように支援します。
- 2) 私達は、学生一人ひとりが、より高い理想を持ち、それを実現できるように励まし、後押しします。
- 3) 私達は、学生一人ひとりに、その資質・能力を伸ばす手段につき情報や機会、助言を提供します。
- 4) 私達は、学生諸君が地域で活躍できるよう努力します。
- 5) 私達は、卒業生からの職業上の相談にもできる限り対応します。